

令和元年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900087	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲		
所在地	( 〒243-0035 ) 神奈川県厚木市愛甲1丁目12番20号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年8月10日	評価結果 市町村受理日	令和2年10月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしく、いつまでも」をモットーにしているホームです。  
閑静な住宅街に位置し、地域の方々の深い理解とご協力をいただきながら運営をしております。入居者は職員本位の日課で過ごすことなく、生活全般に入居者の思いを組み入れ、力を発揮していただきながら、職員とご入居者の関係は、介護する人と介護を受ける人ではなく、共に暮らす家族のような存在に慣れるように努めています。介護職員は20代から60台までの年代の者が在籍しており、ヘルパー2級、介護職員初任者研修を修了しています。介護福祉士資格所持者も7名在籍しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年8月25日	評価機関 評価決定日	令和2年10月2日

※新型コロナウイルス感染予防の為、調査日を翌年度に延期し、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の概要】</b> この事業所は小田急線愛甲石田駅から徒歩7分程度の場所にあり、商店やレストランが立ち並ぶ県道から通りを1本入った住宅地に位置している。すぐ前にはコンビニエンスストアがあり、生活利便性が高い。建物は木造2階建てで、駐車場は広く、庭には菜園があり、季節の野菜を育てている。 <b>【食を楽しむ生活支援】</b> 毎日の食事の献立は、職員が利用者と料理本を見ながら、希望を反映して作成している。食材も職員が購入し、職員の手作り料理で、利用者の楽しみになっている。誕生日には当事者の好みの料理やケーキを用意して祝っている。庭の菜園ではジャガイモや夏野菜が収穫でき、新鮮な野菜が食卓に上がっていて「菜園で育った野菜だよ。おいしいね」などと会話が弾むきっかけになっている。 <b>【家族意見の運営への反映】</b> この事業所では、家族会を運営推進会議の後に位置づけていて、年間で6回以上の開催が計画されている。2019年度は運営推進会議の開催は10月の1回で家族会も1回開催となった。家族会では、事業所からの連絡や報告、家族からの要望や意見交換をしている。また、法人のアンケートで「レクリエーションが少ないのでは？」との意見があり、毎週火曜日は「レクの日」とした。昨年12月のクリスマス会には、テーブルが足りなくなるぐらいの大勢の家族に参加していただいた。
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲
ユニット名	2階 山

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイケアセンター厚木愛甲の誓いを、常に目に見える所に掲示・共有して業務に流されることなく忘れずに実践できるようにこころ掛けている。	理念「ほほえみの誓い」は地域密着型の事業所として、開所時に当時の職員で相談して作成したものを継続している。理念は事務所に掲示しており、職員は日々確認して理念の精神に基づいた介護サービスの提供をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入して、地域・ホームの行事の相互参加が出来るように整備している。	愛甲宮前自治会に加入している。自治会の行事などの案内は、自治会の広報委員が届けてくれているが令和元年度は人手不足があり参加できなかった。散歩の際に、近所の自家農園から野菜や果実を頂くことがあり、顔馴染みになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事を回覧などで確認して、入居者様が可能な限り参加して近隣の方と接する時間を設けられるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ご家族とサービスに関する意見を交わしたり、地域の方・地域包括支援センターの助言や意見を確認して運営の改善に活かせるようにしている。(2019年度は6回は開催できず)	2019年3月に管理者の交代があり、3月末に開催した。その後は2019年10月に開催している。参加者は家族、自治会長、地域包括支援センター職員、管理者、事業所職員で、活動報告や意見交換をした。家族から「外出の機会が少ないのでは？」との質問があり「散歩を含め外出に力を入れることができていない。要介護度が上がっているのと人手不足がある。」と回答した。これをうけて、人手不足解消の一助として地域包括支援センターの職員と自治会長から地域ボランティアの活用について意見があり、検討することにした。	運営推進会議は事業所が自ら設置し、2か月に1回以上定期的に開催することになっています。また、運営推進会議の会議録(報告書)を作成し公表することになっています。新型コロナウイルスの影響を受けて書面での開催もできるようになっています。定期的な開催をされることを望みます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時相談をしていて、情報共有をしている。	市の介護福祉課には運営推進会議の報告書を持参したり郵送したりしている。同課に、入居希望者が地域密着型事業所への入居適格者かどうかの相談を行ったことがある。地域包括支援センターの職員が運営推進会議に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とユニットドアの施錠は防犯上夜間のみ実施している。身体拘束に関する基準を定期的にミーティング等で確認している。	玄関とユニット出入口は、日中は開錠している。現在、止むを得ず日中の固定ベルトや夜間のベットの四点柵を行っている方が1人いる。家族にも事情を説明し理解を得ている。拘束廃止委員会を開き経過を記録している。付き添いができる時は拘束を解除し、夜間も観察回数を増やして、安全の確保に努めている。	引き続き、経過観察と拘束解除に向けての検討を重ね、拘束解除の実現に努める事を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、及び年間の研修計画の中で、高齢者虐待防止法の学習を行い、最低年2回の振り返りが出来るように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については管理者が中心となり活用できるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、十分な説明とご理解を得るように努めている。理解・同意を頂いた上で契約の取り交わしをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のアンケートの実施を行っている。家族会や面会の際にも、ホームや職員への要望やご意見を伺うように努めている。	運営推進会議と同日に家族会を開催している。家族会では事業所から状況報告をし家族から要望や意見を聞いている。家族から「電気の修理を早めにしてほしい」との要望をもらい法人に掛け合い即座に解決した。法人が実施しているアンケートで「レクリエーションが少ないのでは？」との意見があり、毎週火曜日を「レクの日」と決めて、活動している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとに行う業務ミーティング等で、職員同士の意見交換や提案ができる場を設け業務改善に努めている。	毎月ユニットごとの業務ミーティングを開催し情報の共有と職員意見の吸い上げをしている。最近の意見で、業務効率を上げるために介護記録の記入方法を変更することにした。また日々の申し送りは、出勤時に管理日誌を確認して情報を共有している。2019年度は実施できなかったが、グループホーム全体の会議は半年に1度開催する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度や、時給者においてはキャリアアップ制度があり、向上心を持ち業務に携われる環境がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は雇用形態や職種ごとの社内研修を受けている。外部研修頻度は少ないが可能な限り参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	厚木市のグループホーム連絡会に参加して、他事業所と交流しながら意見交換が出来る機会を設けている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時から、ご本人やご家族の困り事、心配事、求めている事を誠意を持ち伺うように努めている。スタッフも特に入居初期においては傾聴を重んじている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における聞き取りは、十分に時間をかけ、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時に必要としている支援は何なのか？をしっかりと聞き取り、提案も行いながら決定するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者と介護される側の関係でなく、共に暮らしお互いを支えあいながら生活する家族的な存在となるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者を支えていただく為の大切な一員として共に考えていけるように心がけている。来訪時には近況報告をして、ご意見やご希望を伺っている。家族と過ごす時間を尊重している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の支援、また身元保証人様より特段のお申し出が無い限り来訪された方との面会支援を行っている。	遠方の家族や、古くからの友人が来訪することがあり、居室でゆっくり歓談できるように配慮している。手紙やはがきの返信も支援している。馴染みの美容院に職員が付き添い出かける方がいる。新型コロナウイルスの影響で、家族などの来所を控えるようになったのでビデオ通話を始めたり、電話の取次ぎをしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握するように努め、入居者同士もお互いさまた思える雰囲気を作り相互の関係を見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、必要時家族と交流を続け相談などがあった場合は適宜応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自ら希望が話せる方は、思いを聞き取りつつ案を出し、言語で上手く表現できない方の場合、本人の気持ちを鑑みて検討している。	日常の関わりの中や入浴時の職員との1対1での会話から思いや意向を把握して記録に残している。会話の難しい方は、表情や様子から本人本位に検討している。居室担当制を導入し担当職員は、誕生日にやりたいことや食べたいものを聞き、対応できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況は、家族やケアマネージャー等から情報収集して、生活歴や嗜好・性格などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のその時々々の心身状況や意欲・能力を共有して、その人らしく暮らせるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を開催している。本人の希望や要望は日常の会話や生活の中から汲み取り、身体状況については必要に応じて医師や看護師から助言をもらい計画書に反映させている。	介護計画の短期目標は6か月、長期目標は1年で見直すことを基本にし、変化のある時には随時見直している。毎月カンファレンスを行い意見を出し合い、モニタリングをしている。終末期を迎えた利用者のサービス担当者会議には、医師、看護師、家族も参加し話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・業務管理日誌を活用し情報共有している。また月1回の業務ミーティングで今後の対応等の見直しをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様本人からの要望は、危険が無い限りなるべくかなえられるように努めている。ご家族からの要望は状態変化に応じ、可能な限り柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	頻度は少ないが、自治会の行事などに参加が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望や状態に合わせて主治医を決定してもらっている。入居時にはホームの提携医療機関（往診）を紹介している。	入所前からのかかりつけ医を継続している方は各ユニットに1名ずついて通院は家族対応になっている。受診結果は家族から報告されている。協力医療機関の医師は月2回往診をしている。訪問看護師は週1回来所して健康管理をしている。歯科医は希望する利用者に定期的な口腔ケアや治療を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算の訪問看護師、往診クリニックの看護師と情報共有をして、必要時速やかに受診などが受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連絡を取り合い、なるべく早期の退院が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に対しての指針の説明と同意を頂いている。入居時に家族の思いや考えを聞き取る努力をしている。スタッフへは指針を周知して出来ることと出来ないことの情報共有をして、より良いサービスにつなげられるように支援している。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し同意を得ている。同意書は2通作成し、各1通を保管している。医師が終末期と判断したら改めて意向の確認をしている。看取りの場合は看取り介護計画を作成して対応している。訪問看護師とは24時間連絡ができる体制になっている。昨年1人看取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務ミーティングで自社マニュアルを使用しながら、対応を確認している。マニュアルはいつでも閲覧できるように保管している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。災害時の避難、指定避難場所を掲示して全職員に周知している。	昨年の9月に地震、夜間の火災、水害などを想定して、机上にて避難経路の確認や対策方法を確認した。今年の3月には、火災を想定して、利用者職員で避難訓練を実施した。災害備蓄は利用者職員の人数分の非常食と水が3日分用意されていて、管理台帳で管理して入れ替えている。備品（カセットコンロや簡易トイレなど）の用意はまだない。	大きな災害がいつ来るか分かりませんので、備えておくことはとても大切です。ライフライン確保の観点からカセットコンロや簡易トイレなどの用意や、地震での家具の飛び出しや転倒を防止する対策をして、さらなる安心への準備ができる事を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の慣れ親しんだ話し方や呼び方にあわせている。馴れ合いになったり言葉使いが荒くなるなどの自尊心が傷つく可能性に配慮して対応している。	個人情報に関する書類は、事務室にある鍵のかかる書棚に保管している。毎年、接遇の研修をして、人格を尊重した声掛けや接し方を学んでいる。トイレ誘導の時にはさりげなく声掛けをするように配慮している。脱衣室はドアの内側にカーテンを付け、入浴前の利用者にはバスタオルをかけるなど羞恥心に配慮した対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択・家事参加等、なるべく本人の希望を伺い決定できるようにしている。ご本人から表出が難しい場合も表情などから本人の視点に立ち支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの希望や1日の生活リズムに合わせて、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人希望にあわせて、理美容の支援を行っている。女性の利用者様は、イベントの時にメイクをスタッフがお手伝いしておしゃれする機会を設けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みに合わせて、オリジナルメニューを導入している。お誕生日の時はデリバリーでお寿司などご本人の希望にあわせたと馳走を準備している。片付けや準備は日常的に利用者様にも参加していただいている。	食事は職員が利用者の希望を反映して献立をたて、食材を購入して調理をしている。この職員手作りの料理は利用者には好評で楽しみになっている。利用者は片付けなどできる事をしている。誕生日には好きな料理やケーキを用意して祝っている。庭の菜園で夏野菜やジャガイモを収穫して、新鮮な野菜が食卓に上がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況（嚥下機能）に合わせて、常食のほかミキサーやトロミ対応にして、安全にまた十分な食事摂取が出来るように提供支援している。水分量・食事量は都度記録に残している。医療処方の栄養補助食品また介護食を提供している方も居る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの力量・習慣に合わせて個別に支援している。訪問歯科で義歯の調整・補修・口腔内のチェックをしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方も居るが、排泄リズムを把握しつつ、個々の表情や動作から随時トイレに誘導してなるべくトイレでの排泄が出来るように支援している。	排泄記録から利用者の排泄パターンを把握して、時間や様子を見ながら声をかけて、トイレでの自立排泄を支援している。タイミングの良いトイレ誘導で頻尿の利用者の失禁が減少したり、パットやリハビリパンツの利用減につながった事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や献立の工夫、適度な運動をして、便秘の予防に取り組んでいる。医療に相談して下剤の処方をして頂いている方も居る。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	2～3日に1回の入浴を目標に、ご本人の体調や気分に合わせて支援している。自立の方は午後にゆっくり入れるように支援している。	入浴は個浴で2～3日に1回を原則としている。時間は原則、午前中だが、調理を手伝う利用者は午後のおやつの後に入っている。また、入浴を好まない利用者も様子を見ながら午後に入浴になる場合もある。季節のゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。浴槽のお湯は、都度入れ替えている。浴室の掃除は週4日程度勤務の雑務担当の職員が担当しているが欠勤の日は職員が行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は睡眠障害のある方は医療に相談をして処方していただいている。その他支障がなければご本人の生活習慣を尊重して入床して頂いている。体力や身体状況に合わせて随時昼間静養（昼寝）をして頂く方も居る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬情報はファイルに閉じて全職員が把握できるようにしている。服薬時はダブルチェックをしている。変更や追加薬があった場合は変化に留意するよう周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方それぞれのできる事を把握して、楽しく家事やレクリエーションに参加できるように日々努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などで戸外に出られるように支援している。家族と外食などを楽しむ方も居る。	天気の良い日は、おやつ前に散歩を行っていたが、新型コロナウイルスの影響で外出は取りやめ、ウッドデッキで外気浴をしている。昨年5月と11月の業者による床ワックスかけの時には同一法人の通所事業所に出かけて、運動会やカラオケを楽しんだ。今年1月には近くの神社に初詣に出かけた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため、基本的に現金の所持はしていただけない。拠点でお小遣金をお預かりして、希望のある時は買い物支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合、電話や手紙の家族との交流支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・浴室・トイレ等の明示をしている。季節を感じられるような空間演出（飾り）をしている。	リビングや廊下の壁には、みんなで製作した季節感のある貼り絵を飾っている。調査時には折り紙で作った朝顔やひまわりの花の作品が飾ってあった。玄関前のプランターには季節の花が植栽されている。リビングはエアコン、扇風機、床暖房、加湿器などで空調管理をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥にソファセットを設置、くつろげるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や思い出の品等をお持ち込みいただき、くつろげる設えになるよう工夫している。趣味のもの、仏壇、家族からの写真をお持ちになっている方も居る。	居室には、エアコン、照明、防災カーテン、ハンガーレール、クローゼットなどが備え付けられている。利用者は好みの家具を配置し、家族の写真やプリザーブドフラワーを飾り自分の好みに合わせている。居室清掃は毎日、職員と利用者で行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、出来そうなこと、わかること、分かりそうなことに対して過剰な手出しや声掛けを控えつつ、安全に配慮した福祉用具を取り入れ、自立した生活ができるように支援している。		

事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲
ユニット名	1階 海

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイケアセンター厚木愛甲の誓いを、常に目に見える所に掲示・共有して業務に流されることなく忘れずに実践できるようにこころ掛けている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入して、地域・ホームの行事の相互参加が出来るように整備している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事を回覧などで確認して入居者様に可能な限り参加して頂き、近隣の方と接する時間を設けられるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族とサービスに関する意見を交わしたり、地域の方・地域包括支援センターの助言や意見を確認して運営の改善に活かせるようにしている。(2019年度は6回は開催できず)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時相談をされていて、情報共有をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とユニットドアの施錠は防犯上夜間のみ実施している。「緊急やむをえない」状況の方1名様は、家族の希望・同意書取り交わしにて期間・時間を限定して行っている。解除に向けての話し合いを定期的実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、及び年間の研修計画の中で、高齢者虐待防止法の学習を行い、年2回の振り返りが出来るように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については管理者が中心となり活用できるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時には、十分な説明とご理解を得るように努めている。理解・同意を頂いた上で契約の取り交わしをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のアンケートの実施を行っている。家族会や面会の際にも、ホームや職員への要望やご意見を伺うように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットごとに行う業務ミーティング等で、職員同士の意見交換や提案ができる場を設け業務改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度や、時給者においてはキャリアアップ制度があり、向上心を持ち業務に携われる環境がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は雇用形態や職種ごとの社内研修を受けている。外部研修頻度は少ないが可能な限り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	厚木市のグループホーム連絡会に参加して、他事業所と交流しながら意見交換が出来る機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時から、ご本人やご家族の困り事、心配事、求めている事を誠意を持ち伺うように努めている。スタッフも特に入居初期においては傾聴を重んじている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における聞き取りは、十分に時間をかけ、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時に必要としている支援は何なのか？をしっかりと聞き取り、提案も行いながら決定するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護者と介護される側の関係でなく、共に暮らしお互いを支えあいながら生活する家族的な存在となるように心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者を支えていただく為の大切な一員として共に考えていけるように心がけている。来訪時には近況報告をして、ご意見やご希望を伺っている。家族と過ごす時間を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話の支援、また身元保証人様より特段のお申し出が無い限り来訪された方との面会支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を見守り、自然に交流を図る事ができるように、話題を提供したり家事参加やレクと一緒に出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、必要時家族と交流を続け相談などがあった場合は適宜応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の会話の中での関心度合いや、過去の生活歴から汲み取ったりしている。思いの表出が難しい方は、ご家族からの情報提供などから把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況は、家族やケアマネージャー等から情報収集して、生活歴や嗜好・性格などの把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のその時々的心身状況や意欲・能力を共有して、その人らしく暮らせるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を開催している。本人の希望や要望は日常の会話や生活の中から汲み取り、身体状況については必要に応じて医師や看護師から助言をもらい計画書に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・業務管理日誌を活用し情報共有している。また月1回の業務ミーティングで今後の対応等の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様本人からの要望は、危険が無い限りなるべくかなえられるように努めている。ご家族からの要望は状態変化に応じ、可能な限り柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来る限り、自治会の行事などに参加して地域の一員としての暮らしの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望や状態に合わせて主治医を決定してもらっている。入居時にはホームの提携医療機関（往診）を紹介している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算の訪問看護師、往診クリニックの看護師と情報共有をして、必要時速やかに受診などが受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と連絡を取り合い、なるべく早期の退院が出来るように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に対しての指針の説明と同意を頂いている。入居時に家族の思いや考えを聞き取る努力をしている。スタッフへは指針を周知して出来ることと出来ないことの情報共有をして、より良いサービスにつなげられるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務ミーティングで自社マニュアルを使用しながら、対応を確認している。マニュアルはいつでも閲覧できるように保管している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施している。災害時の避難、指定避難場所を掲示して全職員に周知している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の慣れ親しんだ話し方や呼び方にあわせている。馴れ合いになったり言葉使いが荒くなるなどの自尊心が傷つく可能性に配慮して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類の選択・家事参加等、なるべく本人の希望を伺い決定できるようにしている。ご本人から表出が難しい場合も表情などから本人の視点に立ち支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの希望や1日の生活リズムに合わせて、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人希望にあわせて、訪問理美容の支援を行っている。女性の利用者様は、イベントの時にメイクをスタッフがお手伝いしておしゃれする機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みに合わせて、週2日オリジナルメニューを導入している。お誕生日の時はデリバリーでお寿司など、ご本人の希望にあわせたと馳走を準備している。片付けは日常的に利用者様にも参加していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状況（嚥下機能）に合わせて、常食のほかミキサーやトロミ対応にして、安全にまた十分な食事摂取が出来るように提供支援している。水分量・食事量は都度記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの力量・習慣に合わせて個別に支援している。訪問歯科で義歯の調整・補修・口腔内のチェックをしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方も居るが、排泄リズムを把握しつつ、個々の表情や動作から随時トイレに誘導してパットやリハビリパンツの利用減に努めつつ、なるべくトイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分補給や献立の工夫、適度な運動をして、便秘の予防に取り組んでいる。医療に相談して下剤の処方をして頂いている方も居る。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	2～3日に1回の入浴を目標に、ご本人の体調や気分に合わせて支援している。拒否がある方の場合、時間や職員を替えて声掛けするなどして対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は睡眠障害のある方は医療に相談をして処方していただいている。その他支障がなければご本人の生活習慣を尊重して入床して頂いている。体力や身体状況に合わせて随時昼間静養（昼寝）をして頂く方も居る。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬情報はファイルに閉じて全職員が把握できるようにしている。服薬時はダブルチェックをしている。変更や追加薬があった場合は変化に留意するよう周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方それぞれのできる事を把握して、楽しく家事やレクリエーションに参加できるように日々努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などで戸外に出られるように支援している。家族と外食などを楽しむ方も居る。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため、基本的に現金の所持はしていない。拠点でお小遣金をお預かりして、希望のある時は買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合、電話や手紙の家族との交流支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・浴室・トイレ等の明示をしている。季節を感じられるような空間演出（飾り）をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下奥にソファセットを設置、くつろげるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具や思い出の品等をお持ち込みいただき、くつろげる設えになるよう工夫している。仏壇や家族との写真をお持ちになっている方も居る。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの力を活かせるように過剰な支援にならないように注意して、安全に配慮した福祉用具なども取り入れながら自立した生活ができるように支援している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター厚木愛甲

作成日 令和2年10月19日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議の定期開催が出来ていない。	適正な運営推進会議の開催。開催できない場合は書面にて関係機関・ご利用者様家族に情報提供をしてご意見を確認する。	定期的な開催（2ヶ月に一回）もしくは書面にて報告をしてサービスの向上に努める。	2020年10月～ 2021年3月末
2	5	身体拘束をしないケアの実現について・・・ 現在家族の希望・同意のもとやむ終えず日中の座位時ベルトで固定・臥床時4点柵をしている方が 1名いる。	日々、経過観察をして解除の実現につなげていく。	経過観察をして状態の変化を職員全体で共有する。身体拘束廃止委員会を毎月開催して、早期の解除につなげられるように努める。	2020年10月～ 2021年3月末
3	13	災害対策 ライフラインの確保が充分でない。カセットコンロや簡易トイレの準備がない。	大きな災害に備えて安心できる環境に整える。	カセットコンロ・簡易トイレを用意。家具の転倒防止対策をする。	2020年10月～ 2021年3月末
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。